

加美町



柳沢の焼け八幡

やなぎさわ や はちまん
柳沢の焼け八幡は、宮崎地区の柳沢集落に伝わる小正月行事です。火難除けや家内安全、五穀豊穡を祈願するきわめて貴重な行事で、宮城県指定無形民俗文化財に指定されています。かつては1月14日から翌日の朝にかけて行われていましたが、現在は1月の第2土曜、日曜に行われています。

1日目はお昼から人々が集まり、八幡神社の前に「オコヤ」と呼ばれる笹竹とわらを用いた小屋と、12束のわらを束ねた「トウロウ」を作ります。

夜にはトウロウに火を付け、その燃え方によって新年の月々の吉凶や天候を占います。



2日目は早朝から身を清めた若者たちが八幡神社へ裸参りをした後、神様として集落の各家を回って酒をすすめ、新しく嫁に入った女性の顔にヘソビ（かまどの墨）を塗り付けて神の加護を願いました。朝6時頃になると、オコヤを勢いよく燃やして新年の作柄を占います。「焼け八幡」の名称は、オコヤが燃える様子に由来すると伝わっています。